①閖上地区かわまちづくり事業

受賞機関 国土交通省 東北地方整備局 仙台河川国道事務所 名取市

キーワード かわまちづくり、復旧土地区画整理事業の連携、 都市・地域再生等利用区域指定

全建賞審査委員会の評価ポイント

関上地区の堤防復旧、土地区画整理、かわまちづくりの各事業が連携して復興まちづくりを実現した取組。景観や水辺のアプローチなどに配慮した賑わい拠点や親水空間を提供し、住民に加えて遠方からの利用者も呼び込むことができる魅力ある憩いの場が整備され、地域の復興・振興に寄与した点が評価された。

1. はじめに

東日本大震災の地震・津波により、名取市閖上地区の河川堤防や中心市街地では甚大な被害が生じた。堤防の災害復旧と名取市の土地区画整理事業等に加え、水辺のあるまちの特徴を活かしたかわまちづくり事業が連携を図り、一体的に整備を行うことで、名取川とともに復興を果たし、新たな賑わいを生み出したまち「閖上」について紹介する。

2. 事業の概要

平成26年12月に「関上地区かわまちづくり」計画が登録され、並行して有識者や地域住民等からなる検討会を設置し、水辺を活かしたまちづくりについて関係者で議論がなされた。再建される関上の市街地と名取川の河川空間とのアクセスを容易にする階段や管理用通路等を整備し、高水敷は様々なイベントで活用でき、河川空間を満喫できる広場とし、河川堤防の背後地にあるまちと一体となった賑わいのある水辺空間を創出した。特に、河川堤防と同じ高さに整備した側帯上に、被災事業者が中心となったまちづくり会社が商業施設を建設・運営し、WEBやSNSによる情報発信を活用しながら地域の賑わいを牽引している。



新たな閖上のまちと整備した水辺空間

3. 事業の成果

平成31年4月には、被災した関上地区で初の恒常的な商業施設となる「かわまちてらす関上」が堤防側帯上に開業し、関上で被災した12店舗が現地での営業を再開した。出店舗数は26店舗(令和6年5月末時点)にのぼる。生活支援機能の再建を図り、地区住民の帰還を促すとともに、新たな住民を呼び込むなど、定住人口の増加にも繋がっている。また、ゆりあげ港朝市、サイクルスポーツセンターなど、周辺の観光施設とも相まって、相乗効果により複数の施設を目的とする回遊性が生まれている。年間の来訪者数は、約30万人を超え、名取市の観光振興と交流人口拡大に大きな効果があった。



堤防と一体となった「かわまちてらす閖上」

4. おわりに

拠点となる商業施設「かわまちてらす閖上」とともに、 貞山運河舟運事業やSUP*体験教室などの営業が開始され、約2年間の社会実験を経て、令和3年3月には「都市・地域再生等利用区域」に指定された。定期的なイベントの開催による賑わいとともに、地域住民や事業者による清掃活動などが実施され、良好な水辺空間が創出されている。

また、隣接するエリアには閖上地区MIZBEステーションや名取市震災復興伝承館(水防センター)が位置し、河川沿いの回遊性を高めるとともに、官民連携による賑わいの創出・防災力向上に取り組んでいる。

【用語解説】

※SUP(Stand Up Paddleboard(スタンドアップパドルボード)): ボードの上に立ち、パドルを漕いで水面を進むアクティビティ

賛助会員 (㈱東京建設コンサルタント、千田建設㈱)、(㈱阿部和工務店